

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の総合学科定時制高校である。教育活動を実践する上で、地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践し、基礎・基本の学力を定着させ、自尊感情の高揚を図ることで、志と生活力のある社会人を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、授業内容・方法等の改善を行う。

イ 本校生徒の能力・適正に応じた授業方法の開発・実践を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程を編成する。

ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程を編成する。

イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する。

ウ 松原高校との連携講座を充実し、本校で開講していない授業を積極的に受講できるようにする。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を改善し、肯定的回答を70%以上に引き上げる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

ア 平成22年度に「スクールサポートプラン集中支援事業」で整備した農園を活用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。

イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。

イ 実践的な職業教育を通じて資質や能力を高めるとともに就職につながる資格取得を充実させる。

※卒業生徒の進路実現満足度（進学実現率と就職実現率）を段階的に引き上げる。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおいて取り組みを行い、中途退学・不登校を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を引き上げ、肯定的回答を70%以上にする。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 子どもたちの命を守る。

ア 教員による教育相談体制を整備し、生徒が気楽に相談できる雰囲気作りに努める。

イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。

ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

ア 長期欠席等の生徒の状況を詳細に家庭に連絡し、改善の協力を依頼する。

イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。

ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深める。

エ セーフティネットとしての定時制の役割を果たす意味で、転編入生を積極的に受け入れ、卒業まで導くサポートを行う。

また、高卒編入制度を活用して地域の方に利用して頂ける学校づくりを進める。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を80%以上で維持する。

4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上

(1) 学校運営体制の確立を図る。

ア 准校長のリーダーシップのもとPDCAサイクルによる学校経営を推進する。

イ 教育活動その他の学校経営の状況の評価を行いその結果を公表する。

ウ 生徒への指導を機能的に行うために、定時制職員室のレイアウトの変更を検討し、教職員の環境改善も合わせて実施する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。

イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。

※校内研修を年間5回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒61.2%→65.1%、保護者41.7%、教員97.1%であった。</p> <p>生徒については、全12項目中、肯定的回答の割合が5~10%増えたものは、4項目と改善が見られた。</p> <p>保護者についても、全14項目中、肯定的回答の割合が、5%以上増えたものは、9項目と大幅な改善が見られた。</p> <p>教員については、全53項目中、肯定的回答の割合が10%以上増えたものが17項目。5~10%増えたものは、10項目あった。今年度は肯定的回答の割合が10%以上減少したものはなく、全体的にみて改善がみられた。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>生徒「わかりやすい授業が多い。」(66.9%→66.5%)、保護者「子どもは、授</p>	<p>第1回(7/14)</p> <p>○H26年度学校経営計画全般について</p> <p>「3 本年度の取組内容及び自己評価」で、特に新たに加わった事項「特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する」について説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師とは？ 協議員から質問が出された。 ・650時間もの講師時間数の確保と単位修得、講師をどのように探しているのか？の質問が出された。 ・生徒が喜ぶのであれば、大変良いことであると意見をいただいた。 <p>○今年度の取り組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用（特別非常勤講師、人気産業活用人材育成事業、JAM熟練技能継

業がわかりやすく楽しいと言っている。」(58.6%→56.7%)、教員「教材の精選・工夫を行っている。」(87.1%→90.9%)「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」(87.1%→86.9%)であった。生徒に応じた工夫を教員が実践し、その効果が徐々に生徒や保護者の診断結果にも表れてきていると言える。

【生徒指導等】

・生徒「学校に行くのが楽しい」(61.2%→59.8%)、「先生は生徒のことを、よく見て対応してくれる。」(75.9%→72.8%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる。」(73.1%→71.3%)、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる。」(85.1%→86.6%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている。」(78.1%→82.8%) 教員「生徒指導において、家庭との連携ができています。」(83.8%→90.9%)、教員が生徒個々に丁寧に指導を行っていることが、生徒や保護者の理解と信頼を示す結果になっている。

・生徒「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」(56.2%→51.7%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い。」(63.5%→66.0%)、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。」(85.1%→83.6%)、「学校は子どもに生命を大切にすることを、社会ルールを守る態度を育てようとしている」(85.2%→85.0%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。」(84.4%→83.6%)など、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。

【学校運営】

・教員「学校運営に、教職員の意見が反映されている。」(71.0%→75.8%)、「教職員が色々なことに意欲的に取り組める環境にある。」(64.5%→78.8%)など、学校組織に関する質問項目16項目のうち、12項目で肯定的な意見アップがみられ、「職員会議等各種委員会が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」においては(22.6%→81.9%)と大幅なアップがみられるなど、昨年の反省が反映されたと考えられる。

承事業など)、農園を活用した取り組み、支援学校との交流及び共同学習、公開講座、高校中退・不登校フォローアップ事業、教育相談委員会の取り組みについて説明した。

・外部講師の活用では、多くのところから工科高校の全日制に負けない多くの時間数を頂いて特別な授業を展開していることについて、改めて驚きの意見を頂戴した。また、講師を探すことの苦勞についても理解をしめされ、地元の人々の活用も考えてはとの意見や面接練習等にも外部講師を活用するとよいのではと意見を頂いた。

・新たな取り組みの、支援学校との交流及び共同学習についても、交流することで両方がプラスになる。素晴らしいことである。続けてほしいとの意見も頂いた。

第2回(12/16)

○学校教育自己診断(11月実施)結果について

・生徒と保護者の結果について、肯定的回答は横ばいではあるが、生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」、保護者「将来の進路について適切な指導を行っている」「生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を育てる」等で高ポイント得ていると示したことに、就職率についての意見が出、求人数、合格数も増えていることについて良いことだと意見を頂いた。

保護者の方のPTA活動や学校行事への参加状況にも話がおよび、PTA活動については、定時制高校の中で活発であると意見を頂いた。

○授業アンケート結果について

・第1回目を6月、第2回目を11月に実施し、11月分の結果が未着のため昨年度との比較検討を行った結果、多くの項目においてもポイントが上がっていると、報告した。

・授業以外の項目でもプラスになっていることは、先生方の努力の結果ではないかと意見を頂いた

・今年度もデータの数値の出し方や平均の数値の変化がどのような意味をもつのか、座学と実技で分けては、学年別ではどうかなど、委員の方からわかりづらいとの感想やデータの出し方についての意見や感想が出された。

○今年度の取り組みの進捗状況報告

・支援学校との交流及び共同学習を「ともに学び、ともに育つ」を踏まえ、ともに助け合い、支え合って生きてゆく大切さを学ぶ機会をもとに2回実施した報告を行った。

・ものづくりコンテスト全国大会出場の報告を行った。定時制からは本校だけであった。等の報告をすると、委員より素晴らしいことだ、今後も技術者の排出をしてほしいとの意見を頂いた。

第3回(2/17)

○H26 学校評価(案)について

評価案の説明を行い、次のようなご意見や提言を頂いた。

・モジュール授業(数学)の成果でアップ率(20%)を見ると素晴らしい結果である。継続して行うことで、基礎学力の向上につながる。今後も継続してほしいとご意見を頂いた。

・生徒の居場所作りとして「なごみカフェ」について報告を行った。

・定時制の生徒は色々な悩みを抱えているので、大切な場所だと思う。というご意見を頂いた。

○H27 学校経営計画(案)について

・准校長の退職に伴い、大きな変更はしていないことを説明し理解を頂いた。

・本校は農園活用をはじめ、継続的に取り組んでいる内容が多いこと、かつ藤工独自のものであり大きな変更をすることが難しいこともご理解いただいた。

・数値目標の追加、変更について説明し了解を頂いた。

○近況報告及び今後の取り組みについて

・PTA活動について後半の取り組みの報告をおこなった。

・農園ができてから、PTA活動が活発になってきている。5、6人の参加から、40名強の参加はすごいことだ。毎回楽しく参加しているとPTA会長より発言あり。

・資格取得の充実に向けての取り組みについて報告を行った。

・資格取得が生徒の将来の楽しみや夢が広がるので、工科高校では大事なことで、次の仕事に繋がっていく。とのご意見を頂いた。

○本校教育に期待すること

・先生方のご尽力によるが、地域の方も応援していただけるので、うまくいっているものは、このまま維持をしていただき、新しいこともしていただきたい。

・新たなことにどんどんチャレンジしていただきたい。

・色々なことをして、生徒が自信を持ってやれる環境を、これからも新しい事も含めて続けて行っていただきたい。人間の成長で一から育てていくことに感動しています。

・色々な生徒の成長も見てきて、先生方には頭がさがる思いである。これからも頑張っていたきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の向上 (2) 特色ある教育課程を編成	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、PDCAサイクルに基づいた授業内容・方法の改善を進める。 イ 授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業（理数、国、英）を1年生を中心に継続・拡大する。 (2) ア 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を70%以上にする。 イ モジュール教材の見直しを行う。最初の診断テスト結果より10%成績UPを達成する。 (2) ア 生徒に外部講師の授業アンケートをとり、満足度を計る。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度は66.5%となり、昨年と比べ横ばいであった(△) イ モジュール授業については、1年生を中心に理数、国語、英語の各教科で継続して行った。国語2年、英語2、3年でも実施した。モジュール教材の見直しも毎年行い、成果が上がっている(今年度は20%の成績アップ)(◎) (2) ア 成果が顕著にでて、ものづくりコンテスト全国大会に定時制生徒として唯一出場。生徒秋季発表大会作品の部で知事賞を受賞。アンケート結果は「仕事内容への理解が深まった」の肯定的意見が94%となっている。(◎)
2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養 (2) キャリア教育の充実・資格取得の促進 (3) 中途退学の減少	(1) ア 「農園プロジェクト」を中心に、平成22年度「スクールサポートプラン集中支援事業」で整備できた農園を使用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。 イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 (2) ウ 就職につながる資格取得の促進を通じてキャリア教育の充実を図る。 自動車整備士、危険物取扱者、CAD利用技術検定、基礎製図検定、小型フォークリフト、アーク溶接、ガス溶接、調理技術検定、パソコン検定、漢字能力検定など 生徒の進路が実現できるように支援内容を充実する。また、就職支援コーディネータを活用する。 (3) エ 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度70%以上を維持する。 生徒が農園で収穫する機会を年間3回以上にする。 イ 「クリーンキャンペーン」を年間3回以上実施 (2) ウ 資格取得数は、年間延べトータル100を維持する。 卒業生徒の進路実現満足度を調査し、進学実現率昨年度80%を85%に、就職実現率昨年度67%を75%へアップをはかる。 (3) エ 中途退学率5%減少	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の学校に対する満足度は、それに関する3項目の平均が69%と若干下がった。(○) 生徒が農園で収穫する機会を5回設定できた。(○) イ 「クリーンキャンペーン」は、年間4回実施し、生徒のボランティア意識と規範意識を高めることができた。(◎) (2) ウ 資格取得数は、トータル123(新たな資格受験を3つ設定)になった。 1月末現在、卒業生徒の進路実現率は、進学(希望者7名中合格者7名)実現率100%、就職(就職試験受験者24名中内定者14名)実現率58.3%である。就職については引き続き指導を続け、実現率のアップをはかる。(○) (3) エ 中途退学者は、昨年度47人、今年度は、14人(1月末現在)である。年度末に退学者が出るが、それを勘案しても目標は達成できる見込みである。(○)
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1) 子どもたちの命を守る (2) 学校・家庭・地域の連携	(1) ア 多様な生徒の相談や相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実やカウンセラーの活用を図る。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 (2) ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。 エ 学年通信等を発行する等家庭への連絡を頻繁にし、家庭との連携を深める。 オ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。 カ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続する。 キ 転編入生の積極的な受け入れを行う。地域の方対象の公開講座の受け入れも広報を通じて積極的に行い、拡大する。	(1) ア カウンセラーの活用事例を昨年度(相談件数20件、ケース会議4回、保護者向け講演会1回)より増やす。 イ 交通安全教室を年間2回開催 (2) ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。 エ 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度80%以上を維持する。 オ 生徒出身中学校全校訪問(府内約70校) カ 年間に8団体程度を農園に招待する。 キ 公開講座を年間5回程度実施する。	(1) ア 昨年度から配置のスクールカウンセラーと連携をとり、教育相談を充実させた。延べの相談件数は、27件、ケース会議は5回、保護者向け講演会、教員研修各1回ずつ行った。(◎) イ 交通安全教室は、3回実施した。(◎) (2) ウ 薬物乱用防止教室は、2回実施した。(○) エ 保護者向け学校教育自己診断で、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている。」(82.8%)で昨年より4.7%上がった。(◎) オ 1月末現在在校生徒の出身中学校49/49校を訪問し、70校の中学校訪問を行い、情報交換と学校のPRを行った。(◎) カ 農園を活用しての地域連携は、延べ14団体(695名)を招待し、地域の方との連携を深めることができた。また、新たに高槻支援学校との交流を2回実施した。(◎) キ 今年度は、転編入生を37人受け入れた。公開講座において、4月当初に駅前等でビラ配布、地域コミュニティー新聞に募集掲載を行った。公開講座を7回実施、延べ58名が学ばれ、地域の方から好評を頂いた。(◎)